

滑川東地区の主な提言等と回答要旨（H27春に開催の「市長と語る会」で）

提言等の項目	H27に開催の「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
① 消雪パイプと道路舗装	浜通りの融雪装置は市で点検しているが、水が出ないノズルが沢山ある。また、常盤町から三穂町に掛けての海岸線の通りは離岸堤を奇麗に整備し、ウォーキング客もいるのにアスファルト舗装がガタガタだ。	明日早速現地に行き、状況を確認します。関係町内からもご意見を聞いて、修繕を進めています。
② ほたるいか海上観光	「ほたるいか海上観光」の故障した観光船を今後どう確保・維持していくのか。また、氷見市と滑川市を結ぶ海上観光構想は、計画が進んでいくのか。	大型連休中の観光船の欠航は大きな痛手でした。来年の再開を目指し、手立てを模索中ですが、船の新造は高額なため、中古船の導入も視野にあります。運営方法、ホタルイカオフシーズン中の利活用策など様々な課題に前向きに取り組んでいます。滑川市沖合いから立山連峰を眺める富山湾岸クルージングなども検討しています。
③ 町内の浸水箇所	これから梅雨に入るが、町内に浸水箇所がある。日頃から相談しており、市側でもよく把握しているはずなので、対応してほしい。	浸水対策については、建設課が、地元のご意見を伺いながら進めます。
④ ゴミステーション	町内のゴミ捨て場にステンレス製ゴミステーションを設置したいが、場所の面など色々と課題がある。どうしたらよいか。	ステンレス製ゴミステーションの設置に対しては、生活環境課で補助制度を設けています。北町など、折り畳み式のゴミステーションを導入している町内もあります。生活環境課へご相談ください。
⑤ タラソピアの今後	タラソピアの老朽化が進んでいるが、自分を含め、存続を求める愛好者は多い。新規顧客の開拓のため、例えばキッズデーと称して子ども客の利用を促してはどうか。活性化策の検討の場があれば愛好者も招いてほしい。また、市外県外の利用客が多く、地元民の利用が少ない。県に運営費を無心したらどうか。	子ども対象の誘客イベントは、過去にも実施しましたが、施設内のプールは子どもの背丈では深い箇所もあり、また、塩分濃度が高く、肌荒れを起こす子もいるようです。塩水で建物の躯体の老朽化が激しく、今後の方針を真剣に検討中です。簡単には結論が出ませんが頑張って取り組みます。また、運営費について、県も類似施設「とやま健康パーク」を運営しており、協力を求めるのは難しい現状です。
⑥ 下水道への接続工事	2, 3年前の「市長と語る会」でも発言したが、町内が公共下水道の処理区域であるにも関わらず、まだ接続工事を終えていない人がいる。市で指導してほしい。	新たに公共下水道の処理区域となった家庭は、3年以内に接続工事を実施するルールとなっています。下水道本来の効果を十分に出すため、市も接続状況を積極的に調査しながら、早期接続をお願いしています。各家庭の都合で難しい状況もあるようですが、粘り強くご理解を求めていきたいと考えています。
⑦ 行田公園	行田公園は花ショウブの見頃に多くの方が足を運ぶ。奇麗に保つてある場所もあるが、ゴミも多く目につくので対処が必要だ。また、同園は県内有数の野鳥の名所で、バードウォッチングのメッカとして、野鳥愛好者の来園も多い。園内が奇麗に整備されすぎて野鳥が減少傾向のようだ。市として行田公園をどのような公園として位置付けていくのか。	行田公園では地域のご協力を得ながら年1回、7月頃、清掃を実施しています。今後は市職員も動員し、さらに環境整備に努めます。また、「自然を残してほしい」との声が愛好者から寄せられており、自然は可能な限り残す方針です。ただ、旧8号側の林が鬱蒼とし、近隣からサギの鳥獣被害に関する苦情があつたため、竹は伐採しました。同園の位置付けは、子どもに対する教育の森、憩いの場、観光誘客の名所など様々ですが、可能な限り、自然を維持する考えです。
⑧ 定住促進住宅近くの踏切と道路	吾妻町の定住促進住宅すぐ隣の踏切は、一たび遮断機が降りると車や自転車、人が溜る。特に遮断機の北側は4差路で危ない。定住促進住宅敷地内にある草地の空きスペースを道の拡幅に使ってほしい。また、この踏切から滑川駅に向かう小路の道路舗装がガタガタで危険だ。	ご指摘の踏切は、確かに遮断機が下りると、交通が滞ります。ただ、件の草地の三角地は、一見空き地に見えますが、実は送水管やポンプが設置しており、利活用は困難です。また、踏切から滑川駅の小路については、予算も勘案しながら、前向きに対応します。
⑨ 歩道の街路樹	吾妻町交差点から寺家小の歩道は街路樹が繁茂している。枝葉がはみ出た箇所もあり、自転車や歩行者が危険を感じることもある。	街路樹は、墓地を通る区間に大きくなり過ぎないハナミズキが植えてあります。景観を大切にする観点も加味して安全とのバランス両立を図り、巡回点検し、植え替え等も検討します。花壇は日頃から職員が見回り、雑草の駆除に努めています。
⑩ 職員駐車場	旧あづま保育所跡地にある市職員用駐車場だが、以前から指摘しているにも関わらず、朝の通勤時間帯、車が競うように入ってくる。子どもの通学路でもあり、絶対にやめてほしい。	すぐに職員に厳重注意します。

滑川東地区の主な提言等と回答要旨（H27春に開催の「市長と語る会」で）

提言等の項目	H27に開催の「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
⑪ 消防団	自分が所属する消防団の第2分団は定員割れ状態で、日頃参加する者もほぼ固定メンバーの10人程度だ。防災の上では「地元は自分で守る」という意識が大切であり、もっと団員が必要。市でも呼び掛けを。	消防団員の確保は各町内会の共通課題で、市長も企業回りなどの際、社員の加入を呼び掛けています。自主防災の観点から、市若手職員の自衛消防組も訓練を重ねています。今後も消防団と連携し、安心・安全の維持に努めます。
⑫ 滑川駅南側の駐車場	滑川駅南側に、一定時間は「駐車無料」と書かれた駐車場があるが、朝から晩まで駐車している人がいる。悪質なものはレッカー移動される旨も書かれているが、判りづらい。一方、付近にある有料の市営駐車場の看板が小さく、もっと大きければ利用が増えるのではないか。	ご指摘の市営駐車場の看板については、実際に小さく、看板を見ない人も多いかもしれません。駐車場に終日駐車していることについては看板の必要性も吟味しながら、対処したいと思います。
⑬ ほたるいか海上観光	「ほたるいか海上観光」の観光船が故障したが、新たに船を造るなら、365日運航・活用できる通年型観光の開発を求める。富山湾の「世界で最も美しい湾クラブ」加盟は追い風であり、新潟から滑川、氷見、能登、金沢を結ぶ壮大な定期観光路線などを検討すべき。また、県水産研究所の養殖魚を使った釣堀や深層水を使った施設など天候や時期に左右されない陸上観光の開発も必要だ。	観光船の今後については、「ほたるいか海上観光」オフシーズンの運行・利活用など、様々な課題がありますが、問題点を洗い出しながら、前進させていきます。釣堀等の陸上観光のアイデアについて、大変参考になります。滑川市の海岸沿いは、クロダイのメッカとして知られる釣りスポットで、県外から訪れる人が多いため、こういう側面の魅力も生かせないか、今後の観光振興策を真剣に練っていきます。
⑭ 市民交流プラザ1階の学習スペース	市民交流プラザ1階西側の机で勉強している高校生は、西日が強いのか、濡れタオルを巻いて頑張る生徒もいる。ブラインド等を設置してほしい。また、子ども図書館整備に伴い図書館本館2階の児童書コーナーが空いたはずで、そこを学習スペースに充ててほしい。	市民交流プラザ1階は、当初は想定していませんでしたが、電気スタンドを設置するなど、事実上の学習スペースとしており、利用する生徒の要望も聞きながら、勉強場所の確保に協力しています。施設を管理している文化・スポーツ振興財団とも協議し、対応を検討します。また、図書館本館2階は、カフェ併設型の、従来以上に資料閲覧に適した郷土資料室の整備に充てる計画です。
⑮ ムクドリ対策	滑川駅は市の玄関口だが、ムクドリ被害対策が不十分に思う。全国に先駆けて駆除対策を行えば、市の宣伝にもなる。市民からアイデアを募るなど、本腰を入れてほしい。	駅前の街路樹は、県や市で管理していますが、駆除のために過度に剪定すると景観が悪化します。ムクドリ対策については、全国における取組を研究していますが、根本的解決につながるものはありません。定期清掃や剪定に努め、市民の皆さまのアイデアも募りながら、頑張ります。